

「人はなぜ集団でいることに価値を見出すことがあるのか？」

2012 年 11 月 23 日(祝/金)

会場：ALBA CAFÉ (青山)

参加：17 名

司会・文責：堀越

1. 概要；

- ・新規 3 名を含む総勢 17 名の参加者を迎えて、「集団」と「他者」の違い、集団の中の他者と繋がる時に何かの価値を感じる「異質性」、「同質性」、さらに、「なぜ価値を感じるのか」について議論した。

2. 議論；

(0) テーマについて

- ・「全国小中高校で約 14 万件のいじめの事例が報告された」との新聞記事があった。この議論では、極端にネガティブな側面である、そのようないじめの場合は考えないこととした一般的には、人はある集団の中にいるときに、何らかの価値を感じるがあると思う。それがなぜなのか？を考えたいと問題を提起した。

(1) 集団の中で自己実現をするときに価値を感じることはある？

- ・Y さん；集団の中では、(少し判然とはしないが)「その集団に対して何か能動的に働きかけて自己実現*1ができるとき」、「その反対に何らかの影響を受けるとき」の 2 種類の価値があるように思う。

*1) 自己実現理論；心理学者；マズローが「人間は自己実現に向かって絶えず成長する生きものである」と仮定し、人間の欲求を 5 段階の階層で理論化したもの。また、これは、「マズローの欲求段階説」とも称される。マズローが主張する「人間の基本的欲求」を低次から述べると、以下の通りである：

1. 生理的欲求、2. 安全の欲求、3. 所属と愛の欲求、4. 承認(尊重)の欲求、5. 自己実現の欲求。

(参考 URL : Wikipedia:「自己実現理論」)

(2) 自分とは異なる他者の意見に触れたとき、自分の意見が良い方向に変わるときに価値を感じるのでは？

- ・K さん；他者の”自分と異なる”意見に触れたことによって、自分の意見がより良い(と思われる)方向へと変わっていくときに、ある価値を感じる。

(3) 集団の中では、そこにある機能に価値を感じているのか？

- ・集団の中で、もしもその集団が持つある機能(例えば収入獲得など)に価値を感じているのなら、例えばその機能を代用できる機械ができたとする、その機械に価値を感じるようになるはず。だから、価値を感じる対象は、必ずしも集団そのものである必要はなくなってしまうのではないか。

(4) 「他者と繋がること」と「集団の中にいること」とは違うのでは？

- ・「他者と繋がる」と「集団の中にいる」とは違うのではないか？ 「他者と繋がる」ときいうと、そこに何か価値を考えることができそうだが、「集団の中にいる」というときの集団には、そこに内包される機能が必ずあるように思えるので、その機能を外して考えられないのではないか。

- ・「他者と繋がる」と「集団の中にいる」ことは、他者の集まりが集団と考えられることから、一緒のことを言っているように思える。

→ここでは、「集団」を「他者の集まり」と置き換えて考えて、「他者との繋がり」に絞って議論を進めることとした。

(5) なぜ「他者と繋がる」ときに価値を感じるのか？

- ・全くの異質性しか持たない他者との繋がりには価値を感じられるのだろうか？ 自分と比べて、他者に異質性を求めると同時にその他者にある程度は何らかの同質性があるときにこそ価値を感じるのではないか？
- ・他者には、異質性に触れて価値を感じることもあるが、やはり同質性に触れることで価値を感じることも多いのではないだろうか。

(6) なぜ「他者と繋がる」ときに感じる価値は同質性が必要なのか？

- ・では、その他者の持つ同質性にどうして価値を感じるのだろうか。ここを掘り下げて議論しようとしたところで、時間切れとなった。

3. まとめ；

- ・テーマ提起者としては、他者と繋がる時にその他者の「同質性」になぜ価値を感じるのかをより突っ込んで議論して見たかったが、時間切れとなってしまったのは残念だった。次の機会を待ちたい。

以上